

# パルクビットプロジェクト (スペイン)

# 持続可能なリゾート マジヨルカ島と沖縄

建築探訪 Part II  
文・写真/福村俊治 ⑰



10 パルマの旧市街地には、さまざまな魅力があるレストランが多い



8 オリーブ畑の風景



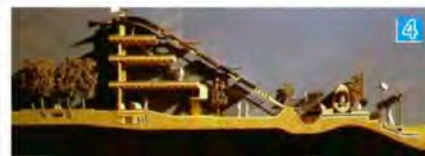
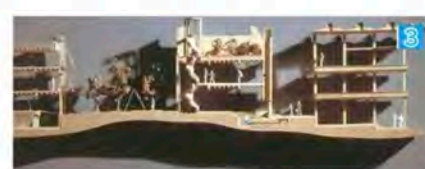
9 マジヨルカ島の丘陵地の風景



7 バレアレス州の州都パルマにある港



1 地中海西部に浮かぶ、スペインのマジヨルカ島 2 アジア諸国や日本本土に囲まれて浮かぶ沖縄 3~6 コンペで選ばれたロジャーズ案 情報社会の中で仕事と暮らしを両立できる次世代リゾート概念図。マジヨルカ島の地形・水・緑などの資源を最大限に生かす土地利用と建築計画において「リゾート自立都市」を目指す



ふくむら・しゅんじ 1953年滋賀県生まれ。関西大学建築学科大学院修了後、原広司+アトリエファイ建築研究所に勤務。1990年空間計画VOYAGER、1997年teamDREAM設立。沖縄県平和祈念資料館、沖縄県総合福祉センター、那覇市役所銘功庁舎のほか、個人住宅などを手掛ける

※パルクビット計画に関してはマルモ出版ランドスケープNo.12に詳しく掲載

もなく民宿のようなものばかりで、われわれが想像していた観光地とは大違いだった。

**低賃金・低コストに対抗**

マジヨルカ観光省は92年、東西冷戦終結後の地中海東部や黒海にできた低賃金・低コストのリゾート地に対抗して、次世代の観光地のあり方を求めて戦略的ビジョン「パルクビット構想」を策定した。それは情報化社会の到来が大きく社会構造・都市開発・市民生活を変え、都市を見越して、知的集約産業や革新的企業や優秀な人材を誘致できるような「ビジネス・リゾート」を目指す計画だった。そのためには島の自然環境を保全しながら、伝統と新技術の発展を統合し、どこにもない「高水準の仕事と暮らしが同時にできるリゾート」を基本とした。

そして、94年には若く革新的な建築家11チームを指名し、「パルクビット国際建築アイデアコンペティション」を実施し、イギリスの建築家リチャード・ロジャースの案が選ばれた。この話は世界中で話題となり注目されたが、沖縄こそ見習うべきリゾートのあり方であり、今後の経済振興策や街づくりに大切な視点である。

毎月第2週に掲載

スペイン・マジヨルカ島はイベリア半島の東、地中海に浮かぶバレアレス諸島に位置する。バルセロナから210キロ、沖縄本島の3倍の面積、人口約90万の島で、中心地パルマは州都である。地中海性気候で温暖だが雨が少なく、特別な資源や産業もなく、アーモンドやオリーブなどの栽培が主で、紀元前から地中海周辺のさまざまな勢力に支配・翻弄された交易の場であった。パルマの街はローマ時代に始まり、今も古い旧市街が残る。19世紀に入り温暖な気候を求めてヨーロッパの貴族が別荘を作り始め、1960年頃から急速な観光地化が始まった。

沖縄と似た地政や歴史・文化ゆえに、1998年に沖縄のグランドデザイン・国際都市形成構想の実現に向けてこの島を県の方々と視察した。この島にはすでに4千メートル滑走路2本の巨大空港があり、ヨーロッパ各地の主要都市と結ばれ、港には客船やクルーザーが停泊している風景は圧巻だった。夏はバケーションの若者や家族連れ、冬は年配の方々の避寒地としてにぎわい、98年当時、年間観光客が900万人・平均宿泊数11泊でヨーロッパ随一の国際的保養地であると聞いて興味深かった。

島にはパルマ以外には大きな街はなく、小さな古い集落ばかりで、目を見張るような名所旧跡も見当たらない。一番有名なのは作曲家シヨパンが年上の作家シヨルジュ・サンドと駆け落ちをし、「雨だれ」という曲を作ったという古びた建物ぐらいだった。緑も海も沖縄ほど豊かでなく、現代的な大きなホテル